柏原市遺跡群発掘調査概報

１９９１年度

１９９２年３月

柏原市教育委員会

序　　文

柏原市が開発等に先立つ緊急発掘調査を実施するようになり十余年が経ちました．従来の調査により遺跡の広がりや深さ，遺存状況等，地下の状況もわかりつつあり，同時に開発側のご理解，ご協力を得て，開発の計画の中に遺跡の保存を盛り込むことも可能になってきました．しかしその反面，掘ってみなければわからないという特性から，予想だにしない事象も稀にあり，新たな問題に直面することも少なくありません．

我々が実施している発掘調査は掘ること自体が目的となっているものではありません．消えていく歴史的事象を知るため，また後世に伝えるための一つの手段であることを知って頂き，さらなるご理解とご協力を賜らんことをお願い致します．

1992年３月

柏原市教育委員会

教育長　庖刀和秀

例　　言

1．本書は柏原市教育委員会が平成３年度に原因者負担事業として実施した，本郷遺跡91－２次，平尾山古墳群91－５次，安堂遺跡92－１次，原山遺跡91－３次，田辺遺跡91－５次の発掘調査概要報告書である．

2．発掘調査は柏原市教育委員会社会教育課　石田成年が担当した．

3．調査及び報告書作成に際し，次記の諸氏の参加，協力があった．

奥野　清　　谷口鉄治　　松尾洋平　　山口　剛

阪口文子　　津田美智子　　尾野知永子　　有江マスミ　　乃一敏恵

（順不同・敬称略）

4．調査に際し，次記の関係各位には格別のご配慮を賜った．記して謝意を表します．

柏元　勲氏　　馬場建設株式会社　　木南雪江氏

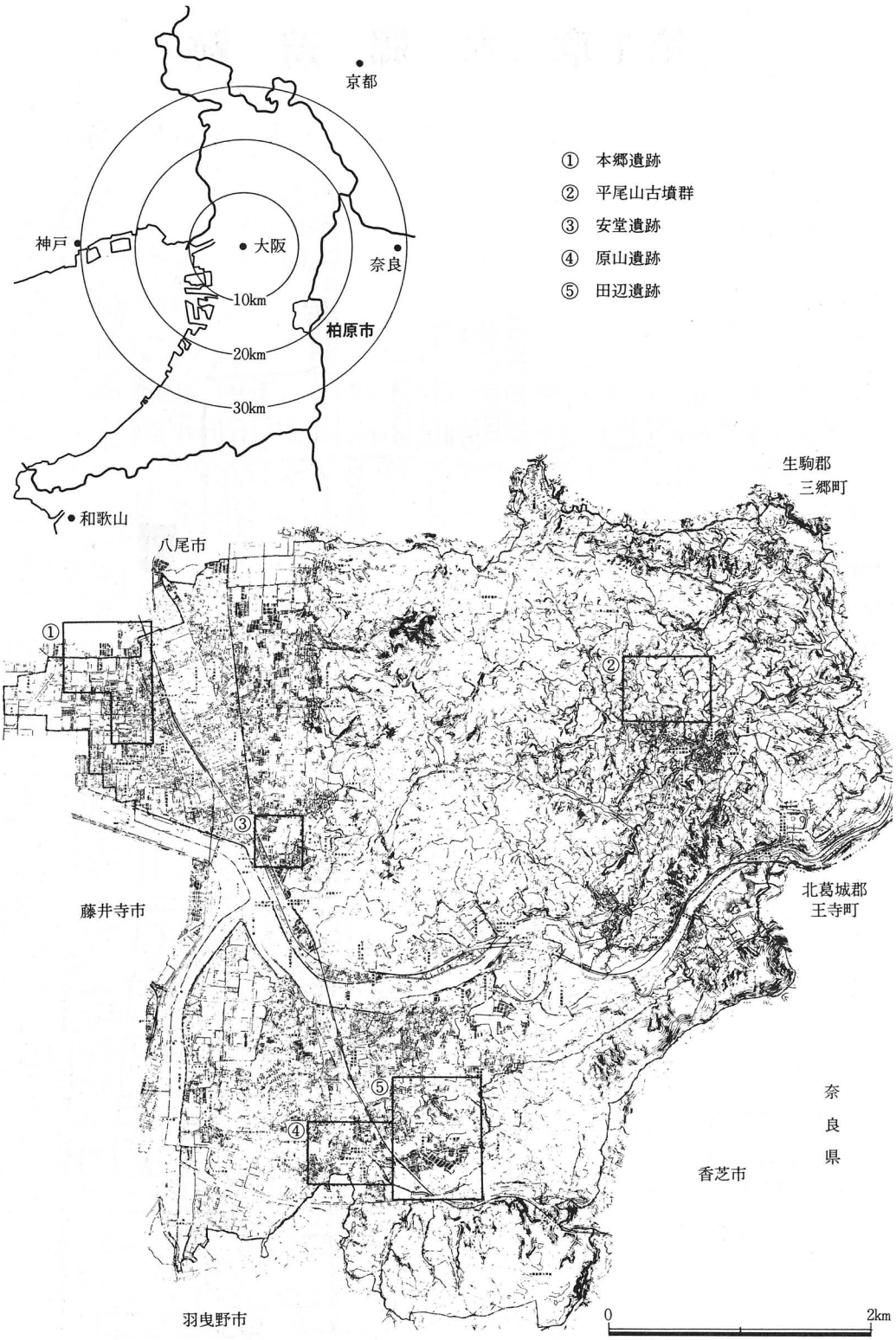
学校法人玉手山学園　　株式会社ソシオコーポレーション

5．本書図中の方位は磁北，標高はＴ．Ｐ．で表示した．

6．調査に際し，写真，実測図を記録として残すと共にカラースライドを作成した．また出土遺物は写真，実測図と共に歴史資料館にて保管している．

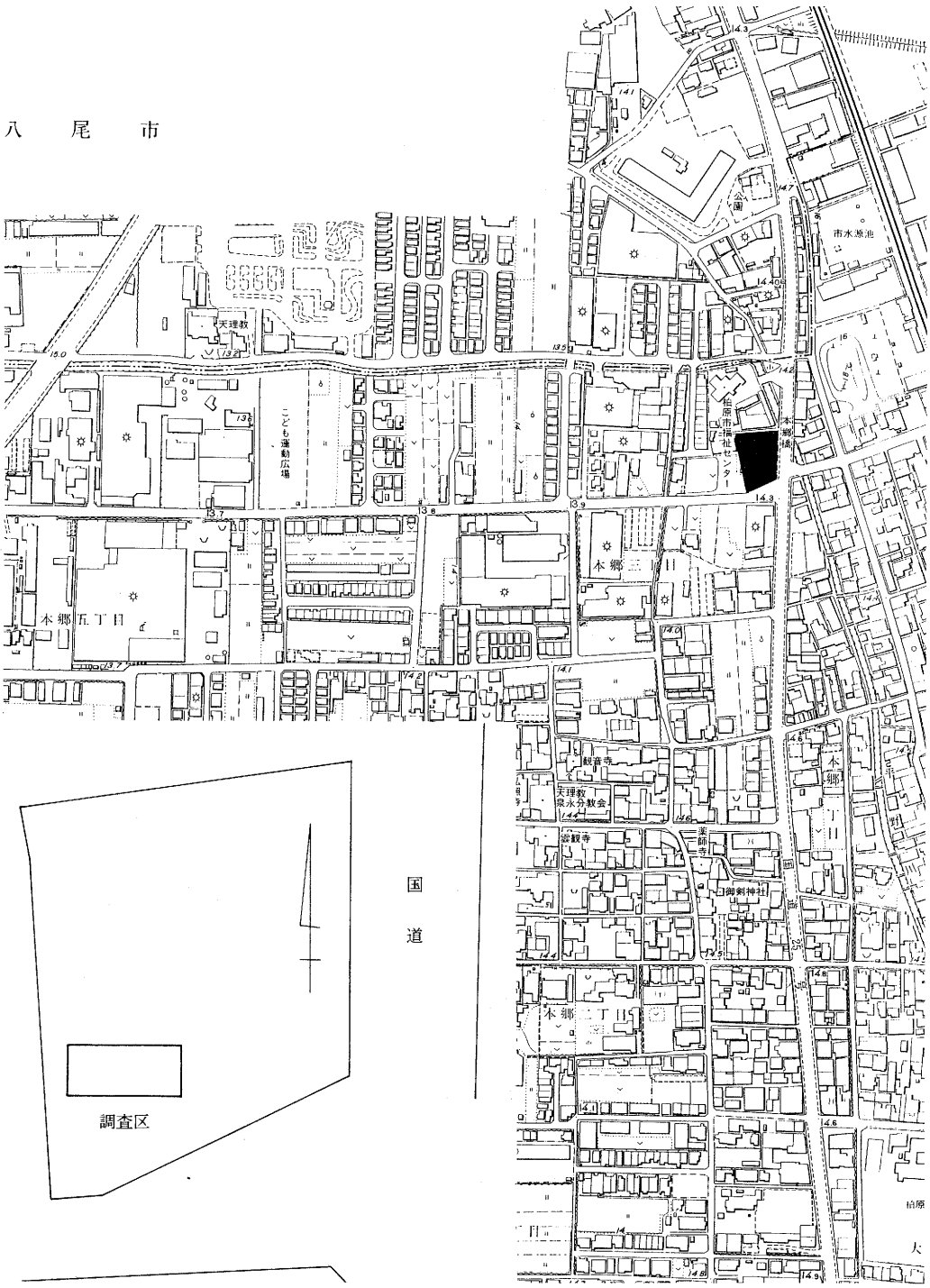
目　　次

序　文
例　言
目　次
第１章　本郷遺跡…… 2
第２章　平尾山古墳群…… 5
第３章　安堂遺跡…… 7
第４章　原山遺跡…… 8
第５章　田辺遺跡…… 12
図　版


京都
神戸
大阪
奈良
10km
20km
30km
柏原市
和歌山
① 本郷遺跡
② 平尾山古墳群
③ 安堂遺跡
④ 原山遺跡
⑤ 田辺遺跡
生駒郡
三郷町
八尾市
藤井寺市
北葛城郡
王寺町
奈良県
香芝市
羽曳野市
0
2km

第1図　柏原市位置図

第1章　本　郷　遺　跡



第2図　調査対象地・調査区位置図（1/5000・1/600）

91－2次調査

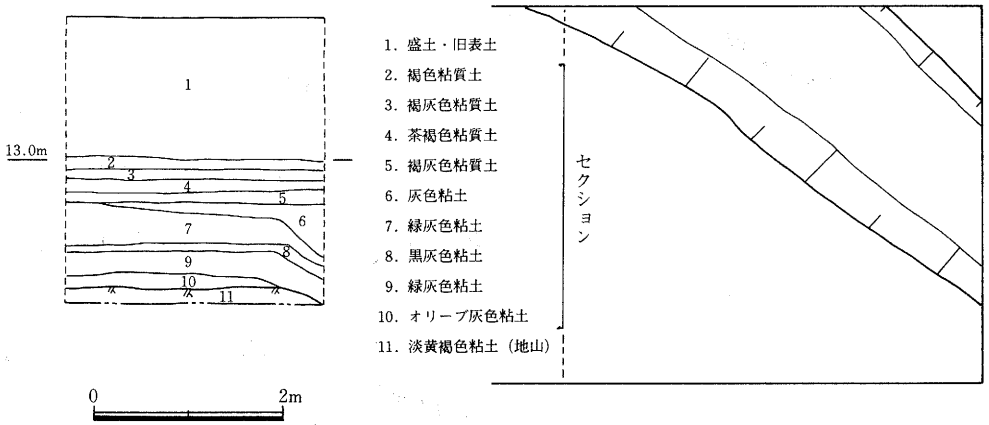
・調査対象地　柏原市本郷３丁目745－３

・調査期日　　1991年８月12日～８月15日

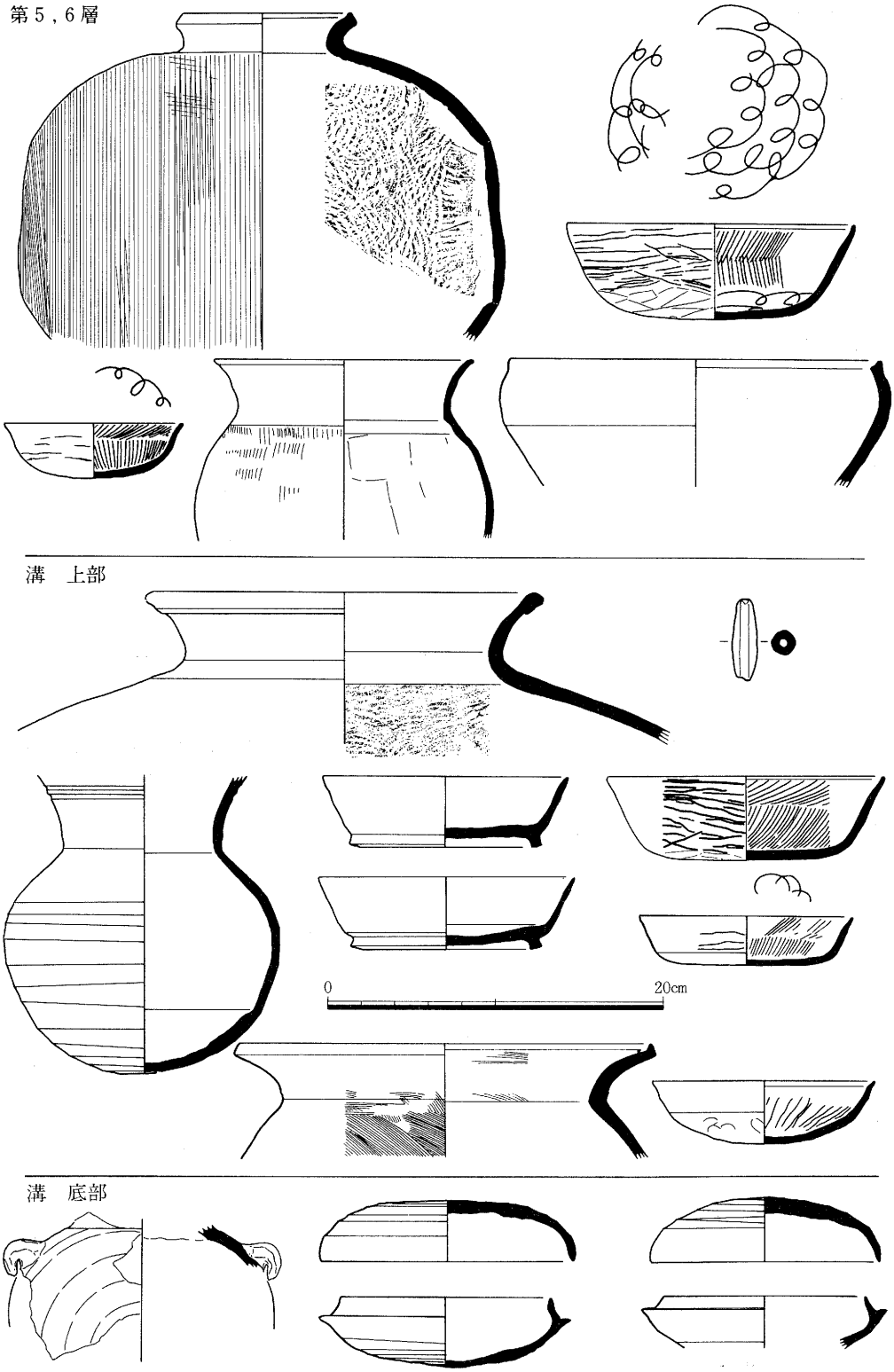
・対象面積　　875.18㎡

発掘調査はレストラン建設に伴うもので，対象地の南西隅，浄化槽予定地に調査区を設定し，機械と人力により掘削した．建物本体の基礎部についてはその深度が盛土，旧表土内におさまることから，調査区の拡張は行わなかった．なお，調査に要した諸費用は全て依頼者である柏元勲氏の負担による．

対象地は本郷遺跡の東端近くに位置する．過去，対象地の西側隣接地（『本郷遺跡・玉手山遺跡』1985）や北側隣接地（『高井田遺跡・本郷遺跡』1990）において調査が実施されている．本調査においても，それらと対応する土層の検出ＴＰに高低差はあるものの，層序，出土遺物等，特に様相に差異がない状況が看取された．現地表下150㎝までは盛土と旧表土，200㎝までは褐色系粘質土，280㎝までは灰色系粘土，そして淡黄褐色粘土の地山となる．地山検出のＴＰは11.7mである．前述の隣接地ではＴＰ13.3mから13.0mで地山が検出されており，そこを最高所にして東南方向に傾斜するようである．遺構として調査区の東北部で溝状遺構を検出した．埋土は灰色粘土（第６層）である．著しい湧水のもとでの精査であったことから，正確な規模は知りえないが，土層及び最底面での検出状況等から，幅約230㎝，深さ約100㎝で西北から東南に流れるものと思われる．遺物は第２層から第６層の各層から出土し，第７層以下では認められなかった．主なものを第４図に図示した．

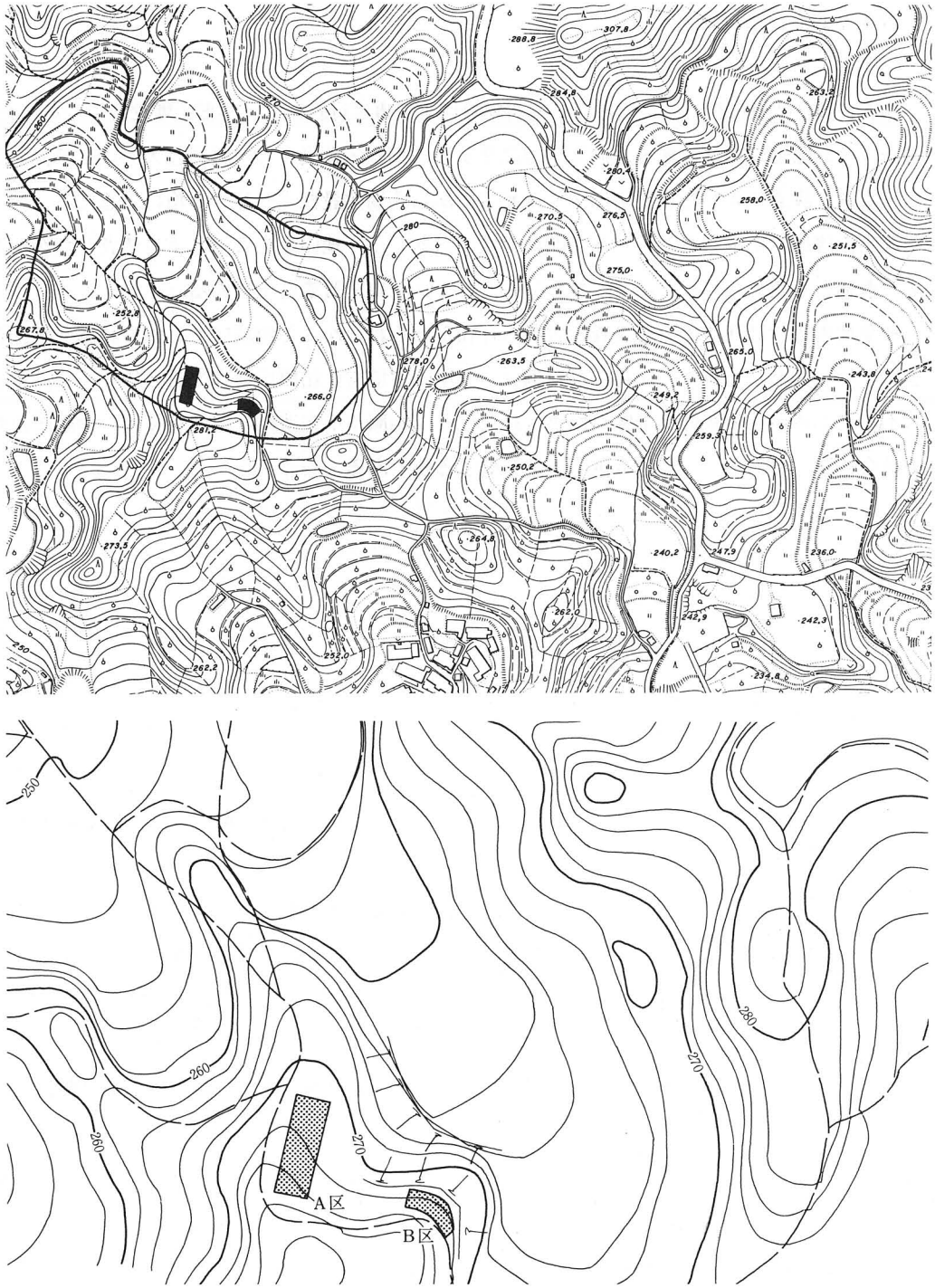


第３図　土層図・平面図



第４図　出土遺物

第2章　平　尾　山　古　墳　群



第5図　調査対象地・調査区位置図（1/5000・1/2000）

91－5次調査

・調査対象地　柏原市雁多尾畑2801　他45筆

・調査期日　　1991年4月22日～4月23日

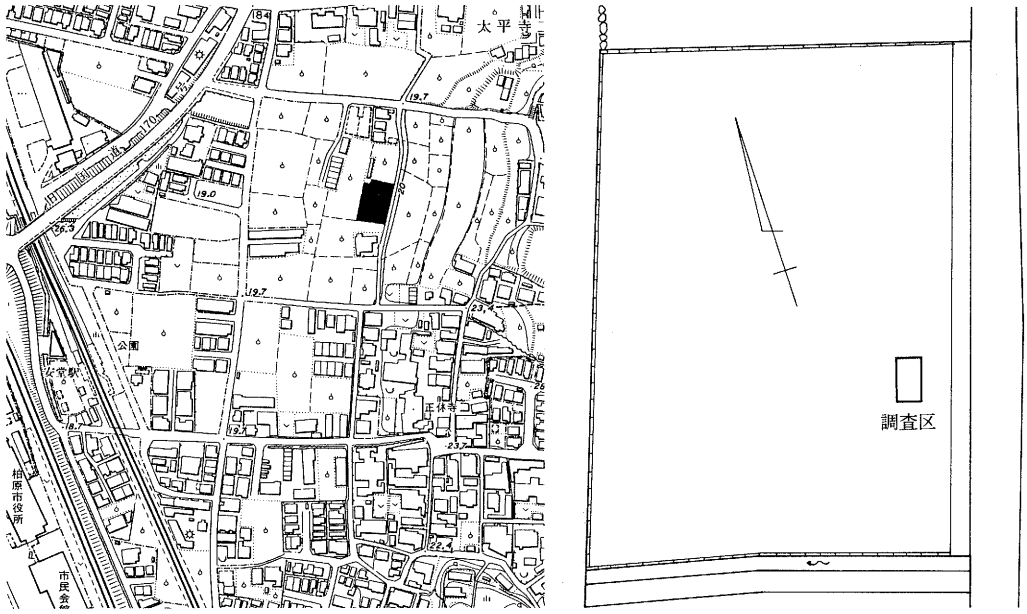
・対象面積　　13,412.0㎡

調査は農地改良に伴うものである．大規模な切土工事は行われず，谷部の埋立が主であった．調査区は対象地の南端にある北向き尾根に2ヶ所の調査区を設定し，機械と人力により掘削した．なお，調査に要した諸費用は全て依頼者である馬場建設株式会社の負担による．

表土を機械で掘削したところ5～30㎝で地山に達した．地山面を人力により精査したが，遺構，遺物とも認められなかった．地山は主として，花崗岩質霊乱土である．

対象地周辺では既往の分布調査で古墳の存在が知られなかった地域においても試掘，発掘調査により，群として新たに発見された例（『平尾山古墳群』柏原市教育委員会1989）や，用途は不明であるが，数基の焼土壙が検出された例（『柏原市所在遺跡発掘調査概報』柏原市教育委員会1988）がある．一帯は今後も注意を要する所である．

第3章　安　堂　遺　跡



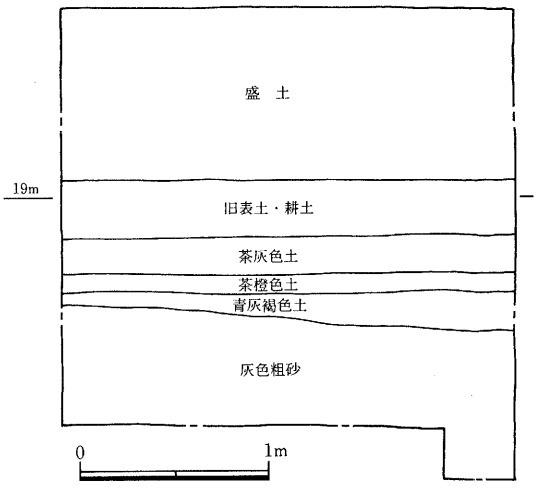
第6図　調査対象地・調査区位置図（1/5000・1/400）

92－1次調査

- 調査対象地　柏原市安堂町919－1
- 調査期日　　1992年1月16日
- 対象面積　　518.58㎡

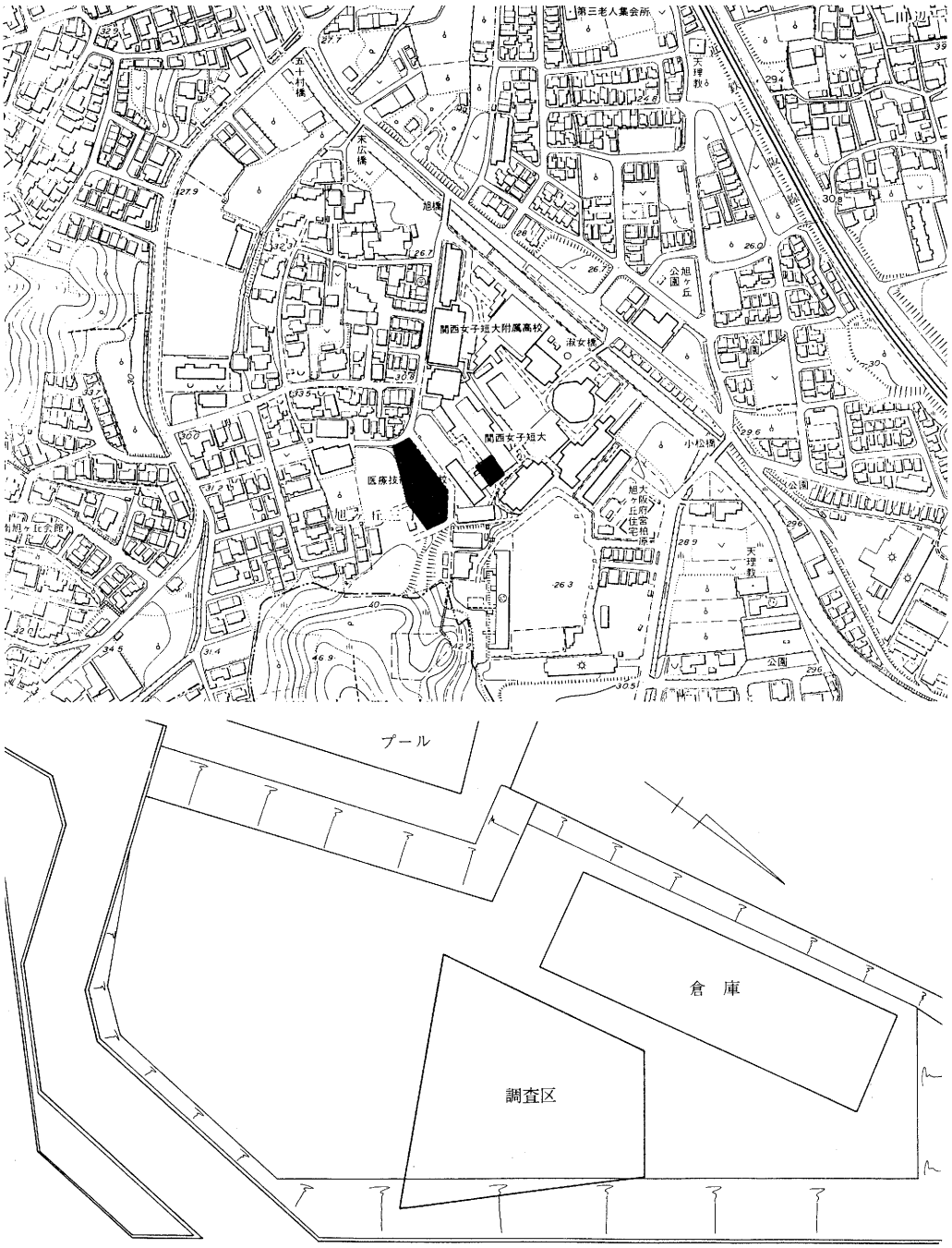
発掘調査は共同住宅建設に伴うもので，対象地の東，浄化槽予定地に調査区を設定し，機械と人力により掘削した．建物本体の基礎についてはその深度が盛土，表土内におさまることから，調査区の拡張は行わなかった．当初，対象地西方一帯での既往の調査と同様の奈良時代中心の遺構，遺物の検出が予想されたが，今回は何ら認められなかった．現地表下160㎝で検出した灰色粗砂層は厚く，湧水も著しいことから流路の可能性もある．

調査に要した諸費用は，全て依頼者である木南雪江氏の負担による．



第7図　西壁断面図

第4章　原　山　遺　跡



第8図　調査対象地・調査区位置図（1/5000・1/500）

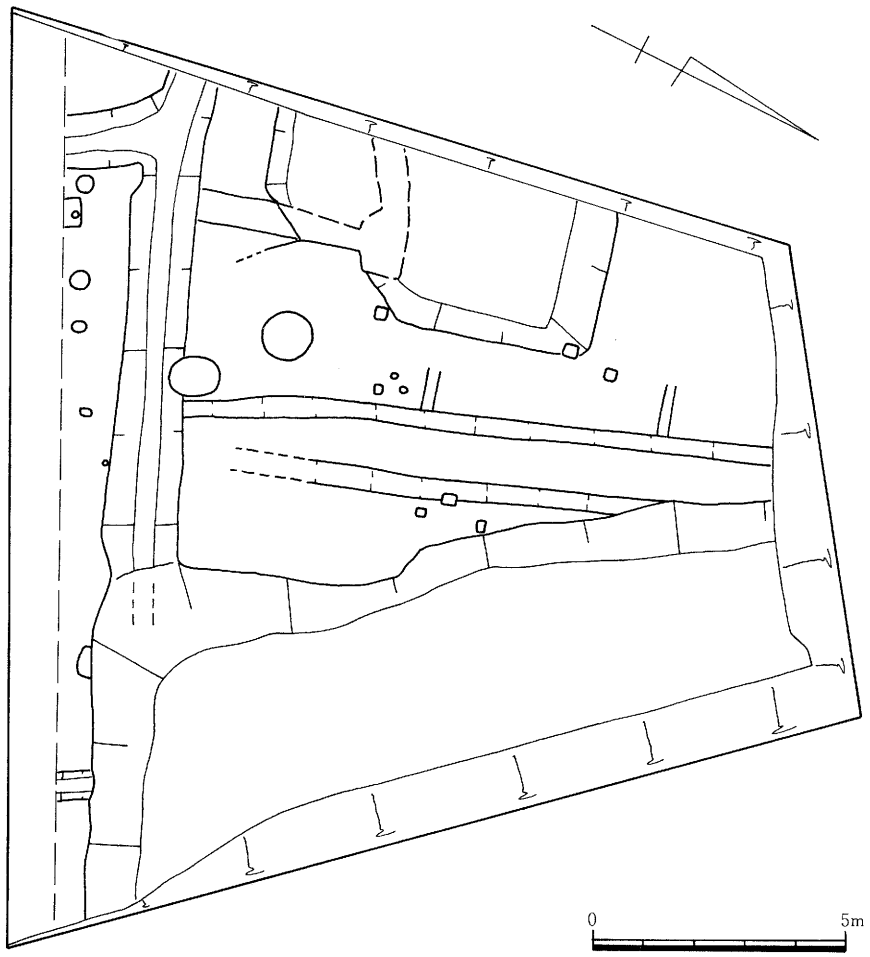
91－3次調査

・調査対象地　柏原市旭ヶ丘3－4839－2他

・調査期日　　1991年12月12日～1992年1月25日

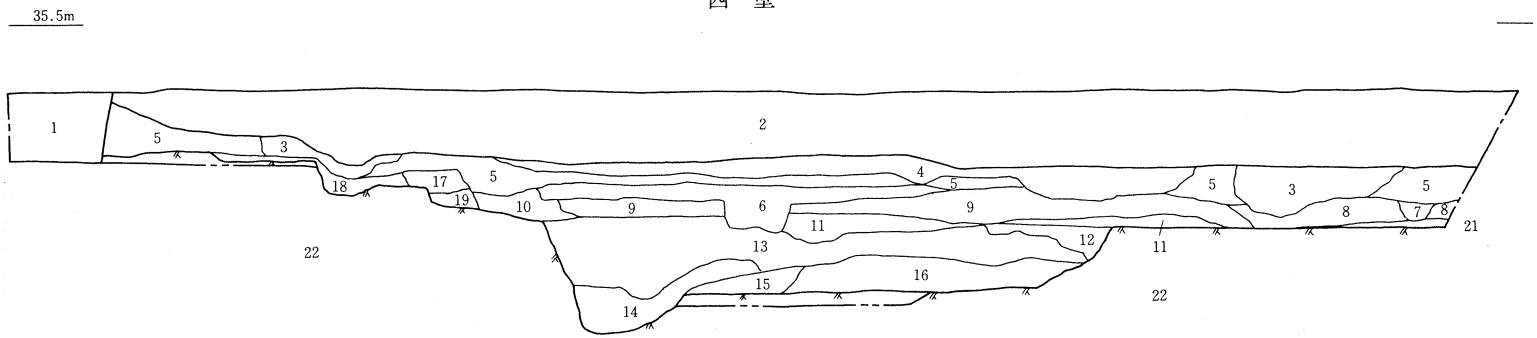
・対象面積　　1290.0m²

原山遺跡では過去に2度，比較的規模の大きな発掘調査が実施されている．何れも玉手山学園の施設拡充に伴うものである．1983年実施の対象地北側隣接地では古墳時代の竪穴住居や飛鳥，奈良時代の建物等が検出され（『柏原市所在遺跡発掘調査概報』柏原市教育委員会1985），また1988，1989年実施の南側隣接地では飛鳥，奈良時代の建物，柵が検出されている（『原山遺跡』柏原市教育委員会1989）．飛鳥時代の遺構は原山廃寺創建以降のもので，原山廃寺に伴う集落の広がりが知れる資料である．両者の間に位置する本対象地においても同様の遺構の検出が予想された．

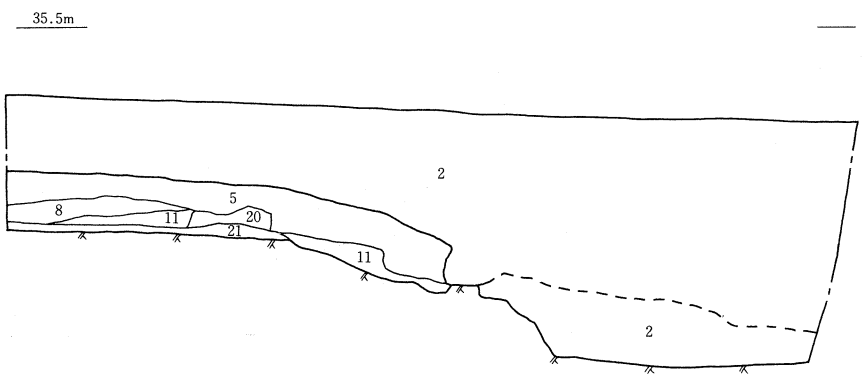


第9図　平面図

西　壁



北　壁



1. 88年調査
2. 盛土
3. 攪乱
4. 旧表土、盛土
5. 4＋褐色土
6. 灰色土
7. 灰色砂
8. 濃灰色土
9. 黒灰粘質土
10. 青灰色土
11. 緑灰色砂質土
12. 灰色土（地山混じり）
13. 灰色粘質土（地山混じり）
14. 灰色粘質土
15. 明黄褐色粘質土
16. 灰色粘質土
17. 茶灰色土
18. 茶色土
19. 灰色土
20. 茶色土
21. 灰褐色土
22. 明黄褐色粘質土（地山）

第10図　断面図

対象地の南3/1は88年に調査済みであることから，中央部の校舎建設予定範囲に調査区を設定し，盛土，旧表土，耕土までを機械により，以下を人力により掘削した．

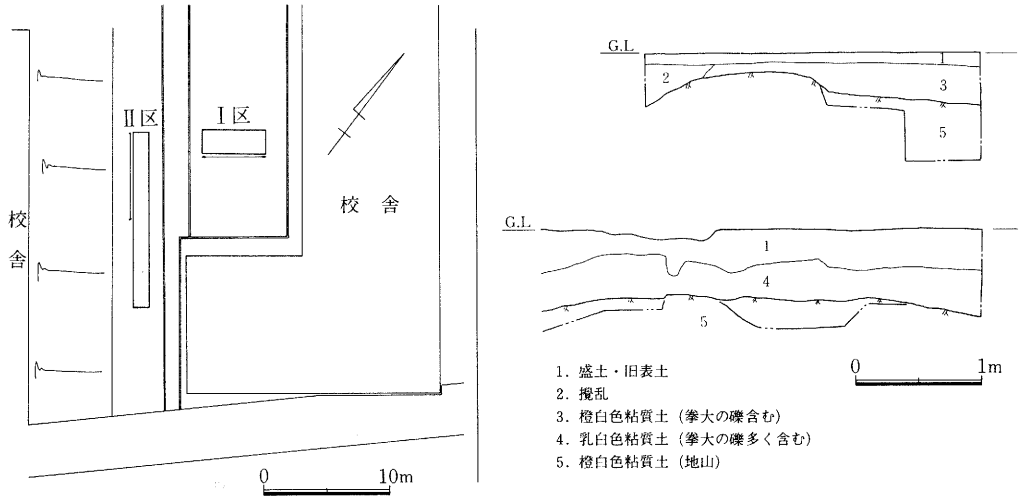
対象地における地形改変の程度は，図示した土層断面の状況からも十分看取される．特に調査区東半は大きく落ち込み，東西の地山面に約140～170㎝の高低差がある．

遺構としてピット，土壙，溝を検出した．巨大な土壙の東辺の南端と北端で検出した3基のピットと，88年調査と重複する，調査区南西隅近くで検出した方形堀方のピットは，埋土内の遺物や88年調査の状況から飛鳥，奈良時代のものと思われる．深さは40～50㎝を測る．これらで構成される建物，あるいは柵の規模はわからない．これらの他に飛鳥，奈良時代遺構と積極的に判断されるものは認められない．小さな円形ピットは，等間隔にあること，同列の方形ピットから葡萄棚のアンカーが出土したこと，周辺地の状況等から葡萄棚の柱跡とみられる．土壙，溝についてはそれに付随する施設であろうか．

出土遺物は飛鳥，奈良時代から近現代までに及ぶ．遺構に伴うものが多い．量はコンテナに換算して1箱である．細片が多く図示は不可．

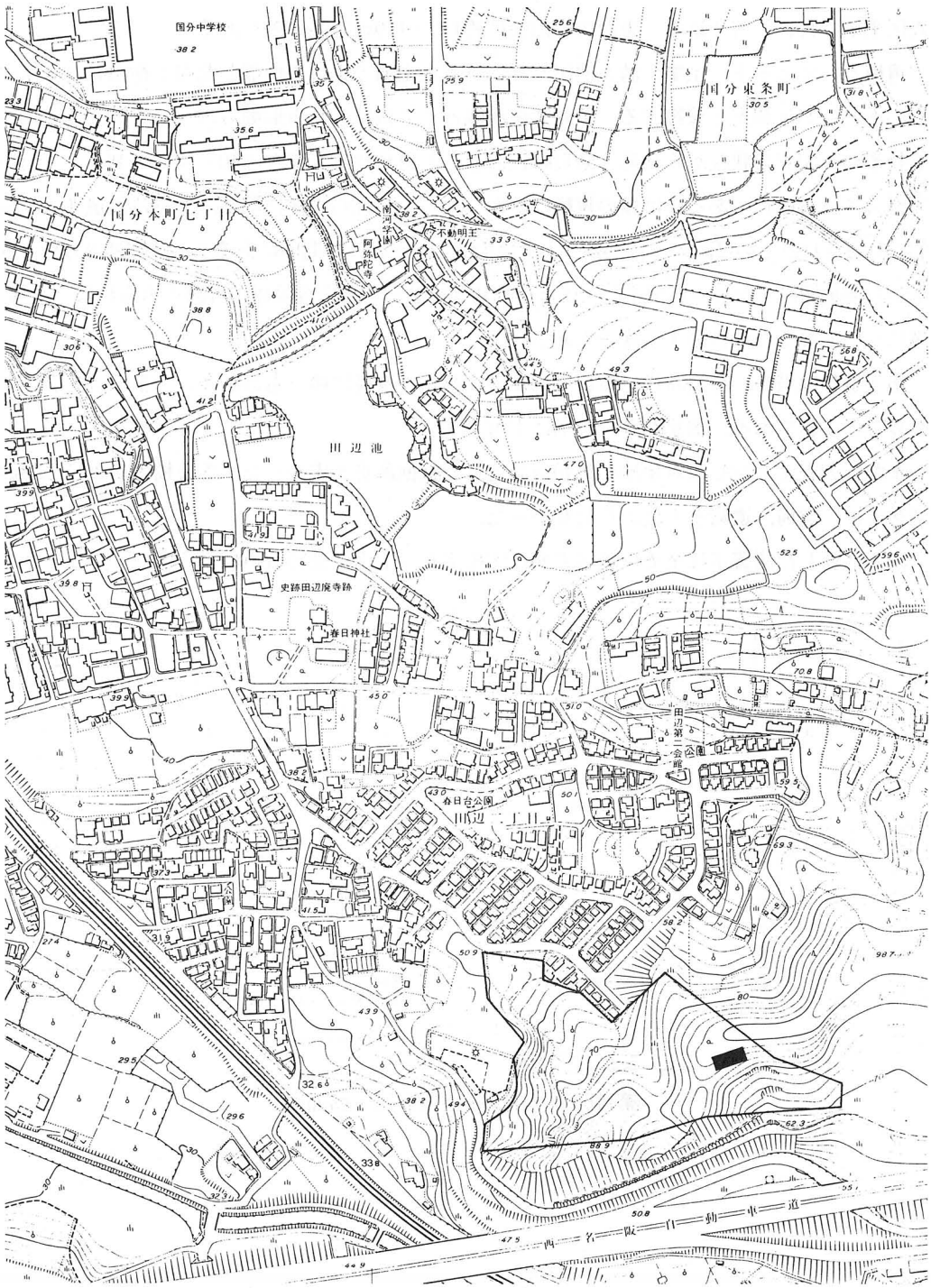
また本調査と並行して対象地の東40mの地点で試掘調査を実施した．既設校舎により地形改変を受け，遺構，遺物とも認められなかった．

調査に要した諸費用は全て依頼者である学校法人玉手山学園の負担による．



第11図　試掘調査区位置図・断面図

第5章　田　辺　遺　跡



第12図　調査対象地位置図（1/5000）

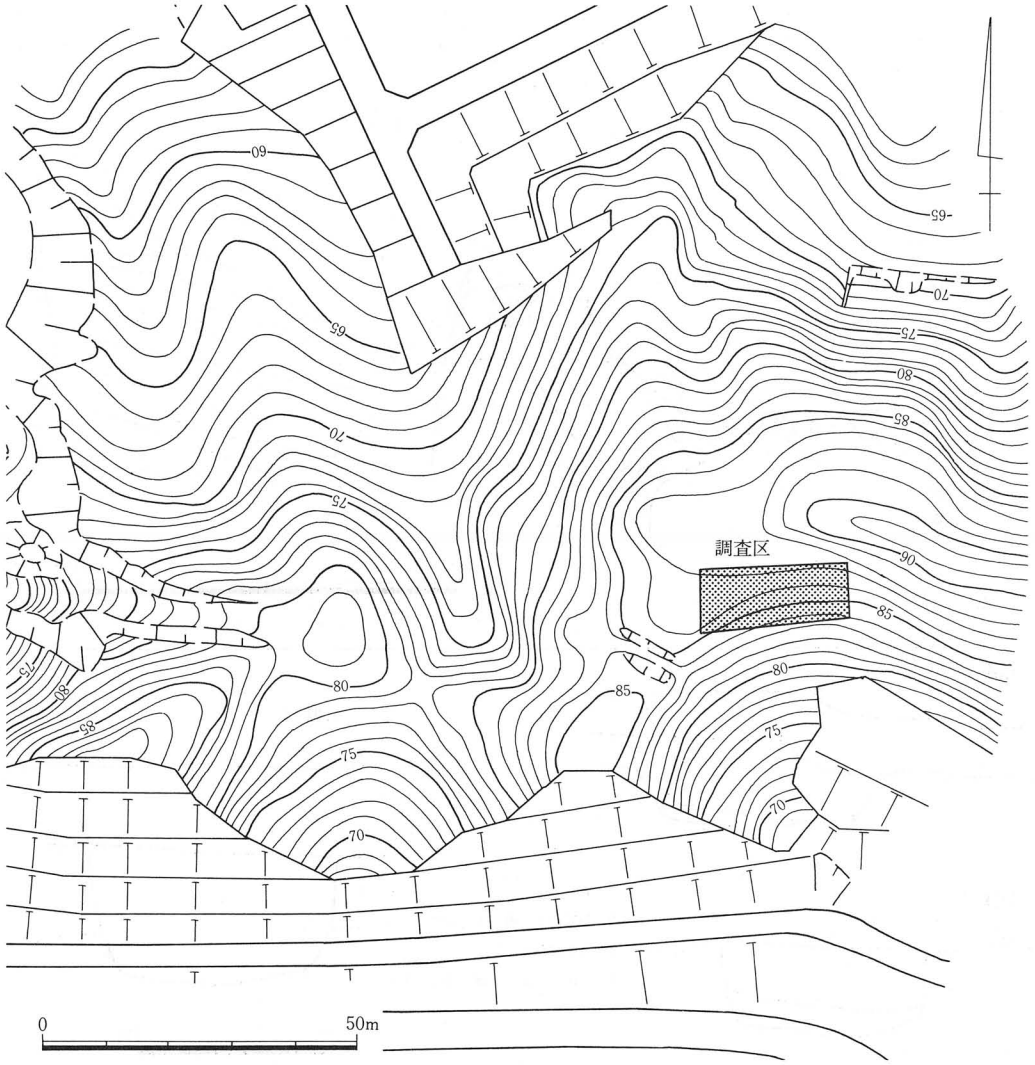
91－5次調査

・調査対象地　柏原市田辺2丁目4608－1他

・調査期日　　1991年8月5日～8月7日

・対象面積　　15194.5㎡

対象地は従前より大規模開発が予定されていた田辺遺跡最南端の丘陵で，1982年に大阪府教育委員会により（『田辺遺跡発掘調査概要・Ⅰ』大阪府教育委員会1983），また1991年にも本市教委により計2度の試掘調査が実施されている．府教委の調査は対象地の南半の高所を中心に行われ，中世の土壙群，落ち，近世の包含層の検出をみた．市教委の調査は北に延びる尾根を対象とし，遺構，遺物とも認められなかった．本調査の調査区は府教委の調査で土壙群が検

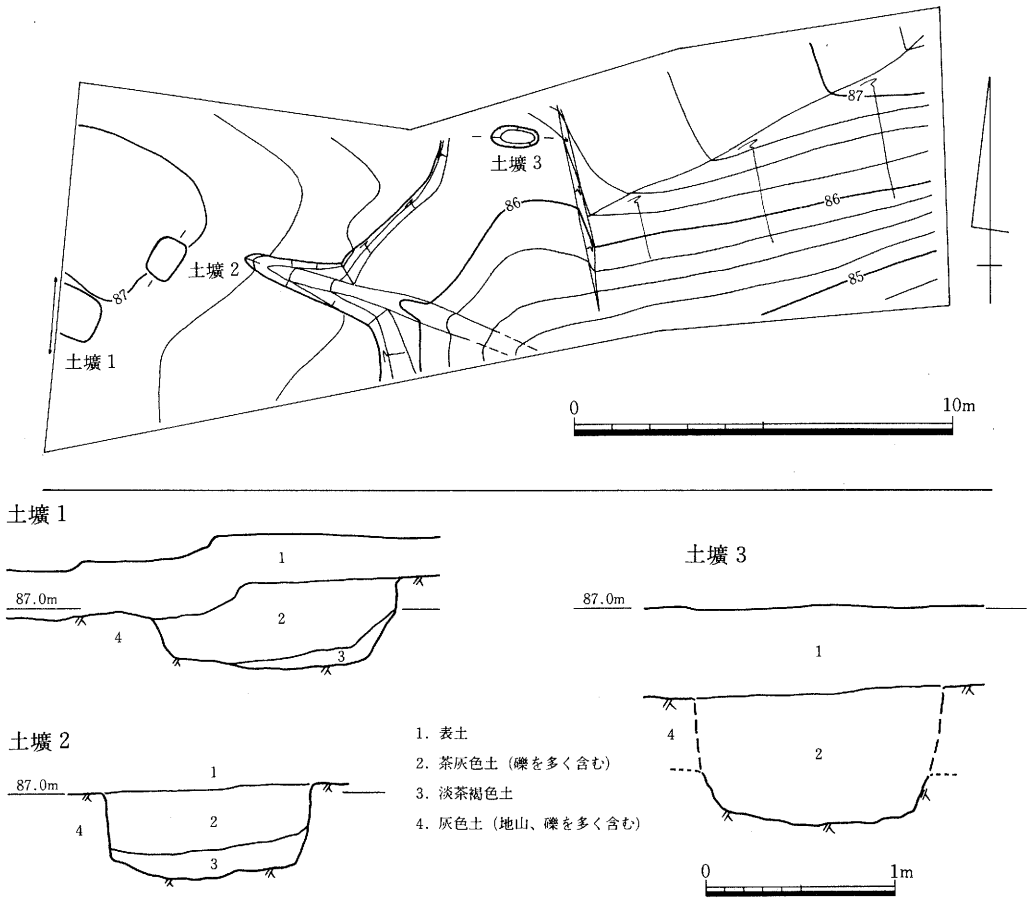


第13図　調査区位置図

出された地点に東接し，対象地の最高所にあたる．

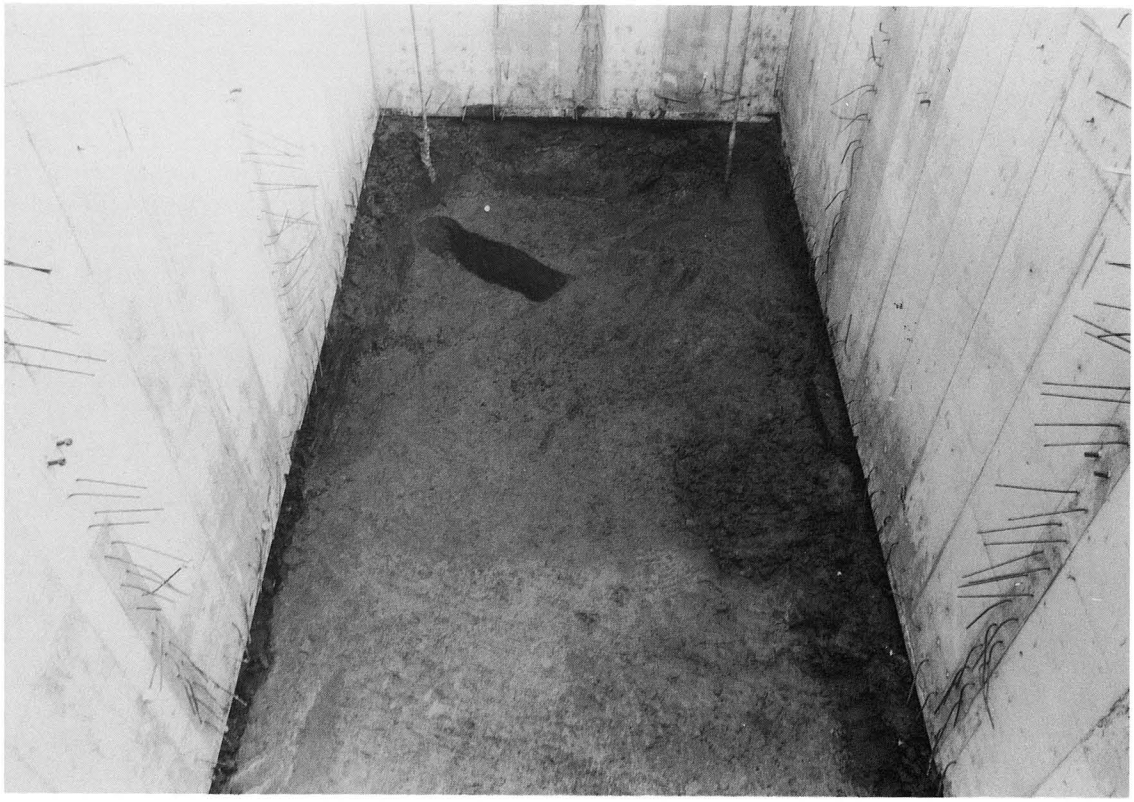
表土を機械で掘削したところ５～50㎝で地山に達した．地山面を人力により精査したところ，３基の土壙，１条の溝状遺構を検出した．土壙１は一辺130㎝の方形で，深さ50㎝．遺物は認められなかった．土壙２は一辺80㎝～110㎝の方形で，深さ50㎝．出土遺物として平瓦片，銭貨がある．土壙３は径50㎝～130㎝の楕円形で，深さ70㎝．遺物は認められなかった．埋土は３基とも同様で，茶灰色土である．対象地は一時期葡萄畑であったとも伝聞し，また土壙２には葡萄棚のアンカーに用いられたものと思われる，鉄線を巻いた板石が含まれている．今回検出した遺構については全てそれに関する施設と思われる．

調査に要した諸費用は全て依頼者である株式会社ソシオコーポレーションの負担による．



第14図　平面図・土壙断面図

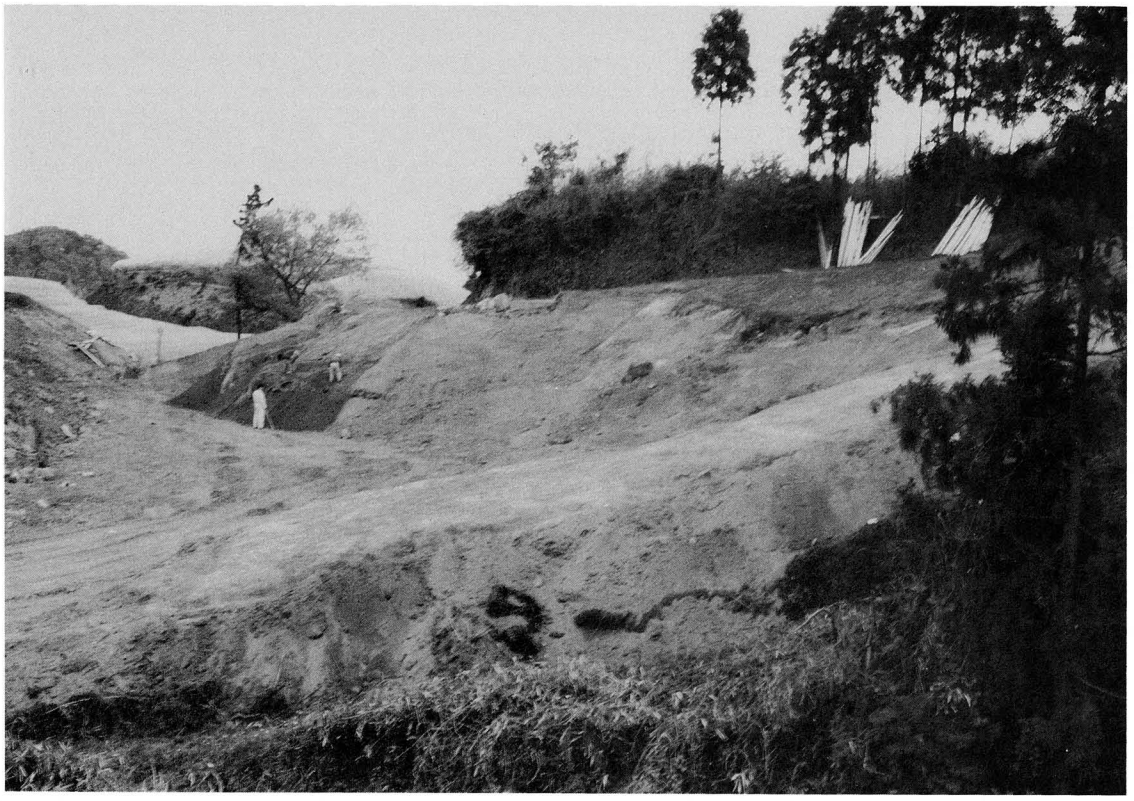
図　　版



地山面（西から）

土層断面（調査区中央部　東から）

調査区全景（北から）



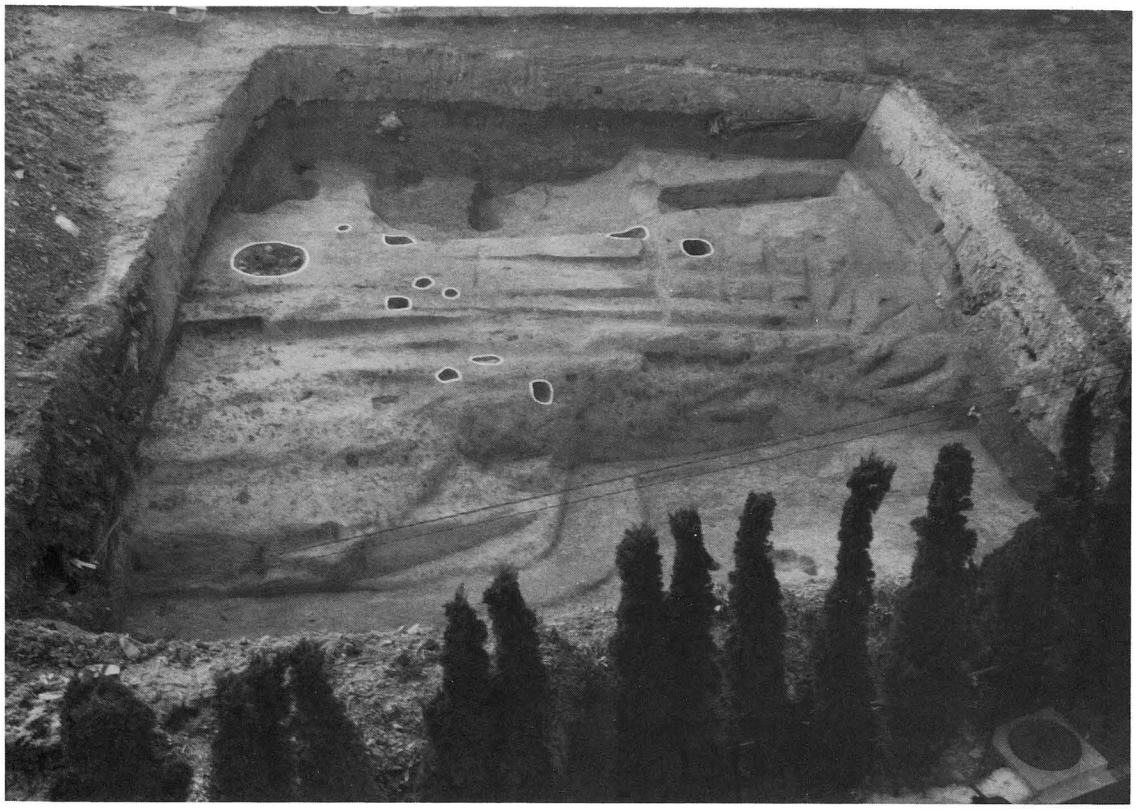
調査区全景（西から）

Ⅰ区全景（北から）

Ⅰ区全景（南から）

Ⅰ区全景（東から）

Ⅱ区全景（東から）



Ⅰ区全景（東から）

Ⅰ区全景（北から）

Ⅰ区西壁断面

Ⅰ区北壁断面

Ⅱ区全景（東から）

Ⅱ区近景（東から）

Ⅱ区西壁断面

試掘Ⅰ区（北から）

図版九　原山91－3・安堂92－1

試掘Ⅱ区（北から）

西壁断面

調査区全景（西から）

調査区全景（東から）

西壁断面

土壙２（東から）

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1991年度

編集・発行　柏原市教育委員会

〒582大阪府柏原市安堂町1番43号

電話（0729）72－1501

発行年月日　平成４年３月31日

印　　刷　株式会社　中島弘文堂印刷所